



2016 年も終わろうとしています。この一年、様々な御恵みを頂き、歩んできました。まず一番に感謝の思いで一杯です。それにも関わらず、願いが叶わず、悲しい、耐えがたい思いも胸をかきむしります。それは、いつも祈っている「命、安全、平和を第一に」という願いが、遠のいていくのを止めることが出来ないからです。福島からの避難者の生活は安心できるものなのでしょうか。毎日のように発生する地震の中で原発再稼働は安全なのでしょうか。沖縄新基地建設は国民の命や生活を守るためなのでしょうか。安倍内閣の政策は真逆に向かって、有無を言わせず進行していると感じずにはられません。私たち国民、県民、弱者の声はどうしたら、施政者に届くのでしょうか。日々の暮らしは、そういう矛盾の嵐の中でも進めざるを得ないのが現実です。この現実には流されないようにしたいといつも願っています。

年の瀬の最大の喜びは、クリスマスです。苦しみ、悲しむ者を招き、生きられる真実と恵みを下さる主イエスの光に照らされる時、希望と感謝が湧いてきます。自らの闇の部分、陰の部分を捨てて、光へと向かうように招かれる力を感じ、喜んで歩むことが出来ます。それを最も強く、心に刻むことが出来るのがクリスマスです。

教会でのクリスマスの行事を終えて、息子家族と一緒に、久しぶりに会食のひと時を楽しみました。年に一度の豪華な(?)食事を精一杯用意しました。息子の妻もスープを作ってきてくれました。文字通り、「スープの冷めない距離」に住んでいるので、本当に有難いことです。私は引退後、時間に余裕ができて、結構、料理に手をかけることが出来るようになりました。かといって上手になったというわけではないのが残念です。レシピやワインの様々なトレンドな情報に、全く疎い我ら夫婦ですが、息子夫婦が多少は教えてくれて、「へえ～、そうなの?」と知る次第です。

今年は、下の孫に「どんなケーキがいいの?」と希望を聞きましたが、「おいしいのがいい」というだけで、はっきり言いません。彼は生クリーム系が苦手です。それで今年はレモンをたっぷり入れて、チーズケーキを焼きました。孫たちは心に秘めていることが多いようで、ただ、黙々と食べます。食べたと言うことは、美味しいということ? 男の子って、どうして家では無口なんでしょう。どうしたもんでしょネ?



クリスマスの後には、年末年始で、全国的な帰郷のシーズンとなり、交通渋滞のニュースが TV を賑わせています。私たちは天の故郷以外に帰省するところはありませんが、亡き両親や、天国の友人を思い起こし、天に帰省の準備(?)を心がけて、墓地のお掃除に出かけました。晴天だったこともあり、4 か所を回りましたが、楽しい作業でした。家族や友人から受けた愛を思い出します。命をこのように繋いでこられたことは、嬉しいかぎりです。感謝して、墓地に花を飾り、黙祷しました。

<p>夫の実家の墓地で</p>	<p>息子の妻の実家の墓地で</p>	<p>教会墓地で</p>	<p>私の実家の墓地で</p>